

わーく&らifu

令和元年12月23日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

- ★年末年始はチャンス！お手伝いのススメ
- ★福祉豆知識「福祉サービス利用手続の流れ」
- ★キャリアにつながる学習 小学部「地域の先生」

～年末年始は チャンス！お手伝いのススメ～

もうすぐ冬休み。そして年末年始。家庭や地域で過ごす冬休みは特に、この時期ならではの年中行事もあり、お子様とともに取り組みたいことが満載です。

お子様の大きな成長につながる（かも知れない）冬休みの過ごし方を特集してお届けします。

◆ポイント1 「冬休みのスケジュール・目標づくりからスタート」

中学生以上になれば、お子様も交えた話し合いで目標と行動計画を作ること、本校が大切にしている「決める力」を育むためのポイントです。

起床時間や活動の順序など1日のスケジュールややる事が決まれば自然と「メリハリ」のある生活になるはずです。しかも何か「特別なこと」をする必要はありません。

◆ポイント2 「いつも通りの「家事業」でOK」

いつもどおりに家族と同じ時間に起床して、本人以外の家族が受け持っている一連の家事（ゴミ出し、新聞を取る、朝ご飯の支度、片付け、洗い物、掃除・洗濯等々）を家族と一緒にやってみてはいかがでしょうか。

◆ポイント3 「大掃除への参加もさせましょう。」

年中行事である「大掃除」は日本人としての文化を教える機会でもあります。お子様自身の場所や物の片付け・整理あるいは断捨離を通して、身の回りの4S（「整理」「整頓」「清掃」「清潔」）を体感させましょう。

◆ポイント4 「あいさつも重点的に」

年末年始は親類など集まる機会が多く、あいさつ実践の機会がある時期と言えます。よいお手本を見せてあげましょう。



はたらく大人に育てるための「お手伝い」のススメ！

将来の仕事につながる活動は、家庭の中にたくさんあります。活動の選び方としては、まずは興味のある活動から始めるとよいでしょう。（ex 水遊びが好きなら風呂掃除をする等）

しかし年齢が上がれば、楽しいことを我慢してでも必ずやりとげることも大切です。働くには「我慢する力」も重要だからです。このようにお手伝いや家事で培った力をベースにして、働く力が徐々についていきます。次に、お手伝いで育つさらにより力や態度について解説します。

◆人から教わる姿勢が育ちます。

手伝いを教わるということは、手本を見て（注目）、真似をしながら（模倣）行動し、その時間を相手に合わせる（協調）ことを学ぶということです。このことは、学習のための重要なスキルですので、いろいろな事の基本です。また、教わる相手が、お母さんだったり、お父さんだったり、ときにはきょうだいだったり、協調できる相手が変わることも大切な学びとなります。

◆人から認められることを実感できます

家庭の重要な役割の一つは「子どもにとって安心できる場であること」で「心の基地」とも表現されます。じっくり丁寧に話を聞き観察し、できたことを、できたぶん（大げさでもいいから）しっかり認め、ほめてあげましょう。

家庭での手伝いは、まさにほめられる（人から認められる）機会を増やすことと言えます。家族と一緒に決めたことをやり遂げる経験が責任感を育み、家族から認められることで、自分自身を肯定的に見ることが出来るようになります。

◆がんばった分と評価（報酬）の結びつけ

家事（労働）とお小遣い（報酬・対価）の関係づけを、早い段階から行っておくことは、働くモチベーションにつながっていく大事なことです。

年末年始は、クリスマスやお正月などの行事や、お出かけなど子どもにとって魅力的な事が満載です。そこでこの機会とお手伝いを結びつけない手はありません。「これをがんばったから、〇〇円のお小遣い」「冬休みに毎日〇〇できたら〇〇」という取り組みも有効です。

ごほうびのあげ方にも、お子さんの実態に応じて工夫ができます。毎回あげる方法、シール（トークンシステム）をためる方法、お小遣い日（給料日）を決めて社会生活に近づける方法でモチベーションを高め、たまったお金で更に楽しみな計画をたてることもいいでしょう。

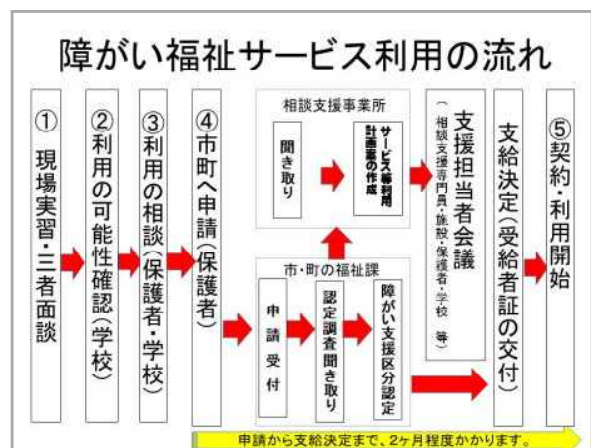
大切にしたい「仕事」への土台作り
～「働く」キャリア発達の段階性～



◆「ありがとう」の言葉のシャワーを！

最も大切な評価は、「ありがとう！たすかったよ。」「きれいになって嬉しい。」など、家族の一員としての自分を意識できるように、お子さんにわかる伝え方で感謝の気持ちを伝えることです。心がけましょう！

■福祉豆知識「福祉サービス利用手続の流れ」



高等部3年生は、卒業後の進路(希望)決定と「福祉サービス」利用に向けた手続の真っ最中です。

ここでは、誰がどのような流れで手続をするのか、概要を知っておきましょう。

【手順① 現場実習・三者面談】

「現場実習」「施設体験」事後の三者面談を通して、利用サービスや施設の希望を絞り込んでいきます。

【手順② 利用の可能性確認】

学校は、本人・保護者の希望を施設へ伝え利用の可否を確認します。

【手順③ 利用の相談】

保護者・学校双方から施設へ、卒業後利用のはっきりとした意思表示をします。施設によっては書面で申込をする場合もあります。

【手順④ 市町へ申請】

お子様の福祉サービス利用を決定するのはお住まいの市町です。そこで市町の福祉課への申請が必須で、ここが手続の始まりです。

申請が済んだら、あとはしばらく保護者からする手続はありません。市町の福祉課から「認定調査・聞き取り」の日程連絡を待つことになります。

聞き取りが済んだら「障がい支援区分」が決まり、2月頃実施されるお子様の「サービス等利用計画」に基づいた「支援担当者会議」を経て【手順⑤契約・利用開始】となります。

必要な手続をうっかり忘れていると、最悪、卒業後すぐの利用ができなくなることもあります。そうならないように確実に済ませてきたいものです。

キャリア・発達を促す学習の紹介 小学部一般学級「地域の先生」

小学部一般学級の3年生から6年生は、今年度も生活科「地域の先生」において、長洲町のボランティアグループ「いたちごっこの会」の方々にトイレ掃除のご指導を受けて、1号棟、職員用、プールのトイレ掃除に取り組みました。

子どもたちは、嫌がることなくスポンジを使って便器の中の水を取り除いたり便器や床を磨いたりしました。時間いっぱい磨き続け、少しずつきれいになっていく様子を見て、掃除をすることの達成感・やりがいを感じながら取り組む様子が見られました。

掃除が終わった後には、「きれいできもちいいね。」「楽しかった!」「きれいになったから、見てください。」等、子供たちの言葉があがり、トイレがピカピカになるだけでなく、表情もすがすがしくなっていました。子どもたちは、トイレ掃除を通して一生懸命自分の役割を果たすこと、誰かのために役に立つ喜びを味わうこと等、働く土台となる経験をすることができました。

(小学部一般学級 井上)

THE・プロフェッショナル



編集後記

特別支援学校で大切にしている「はたらく」の意味は「自分の得意なこと(好きなこと)を、一生懸命に続けて、誰かの何かの役に立つこと。」です。この価値は障がいの有無や程度に左右されない普遍のものであります。

私たち支援者・家族に必要なのは、子どもの「得意なこと(好きなこと)」を育て、最大限伸ばしていくことであり、いろいろなことを「根気強く続ける」「最後までやる」経験の準備であり、「やって良かった。」につながる「認め褒め励まし伸ばす」姿勢だと考えます。このことをご家庭・学校で共通の認識として歩んで参りたいものです。

(高等部 谷口)